

ふりかえり会議（事後）コーディネーター意見書

■ 事業名：チャイルドライン24に関する「ネットワークみえ」について

■ コーディネーター氏名（所属）：中盛 汀（W. T. Aまちづくりセンター）

■ ふりかえり会議開催年月日：平成18年1月16日

（※所定の様式では書きづらかったため、フリーで書きました。すいません）

このネットワークに寄せる期待としては、一つの団体からはごく一面からの子どもの姿しか見えないという部分を、様々な活動に取り組む様々な団体がネットワークすることで、違った角度からの問題点がみえてきて、それが三重県の子どもたちの現状を多面的に把握できることへとつながり、また、一つの団体に関われる子ども的人数には限界もあり、県内の子どもたちへと輪を広げるには行政の力が必要である、といったことからの取り組みだと認識している。そこへ、みえてきた全体像を、ネットワークする団体などが解決へと取り組める部分、行政が取り組むべき部分などの整理をし、次年度の施策へとフィードバックしていける。

また、ネットワークは限定、固定メンバーではなく、広がりを持っていくべき部分であり、現状としては実施に追われて勧誘まで手が回らない、というNPOサイドと、教育委員会では「なぜチャイルドライン24だけに？」と言った声も出ている、という話が担当者からあった。

教育委員会では年間700近い後援名義使用の申請を受けているようで、その団体には積極的に県教委からも「三重県の子どもについての取り組みなので、誰が入ってもいい。趣旨に賛同されたい」といった情報提供がされていないとのことだったので、少し構想段階からは狭くなっているようにも感じた。ぜひ、そのあたりの連携を取っていただき、このネットワークに広がりを持っていただけたら、と思う。また、月1回の集まりでは時間がぎりぎり、ネットワークについての話は出来ていないようなので、ネットワーク自体の情報交換の場と、情報共有の時間を持つことが出来たらいいのでは。

ネットワークへの勧誘の部分で、事業構築段階で話が出ていたパンフレットにも着手できればいいのではないかと感じたが、日々の実施にご尽力いただいていることにまず感謝を申し上げたい。

ネットワークの今後の広がりを期待しています。